

The Association between Activity of Daily Living and the Combination of Alzheimer' s Disease and Cataract in Elderly Requiring Nursing Care

メタデータ	言語: English 出版者: 公開日: 2017-10-05 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 濱岸, 利夫, Hamagishi, Toshio メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/47005

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



論文内容の要旨及び審査結果の要旨

受付番号 医博甲第 2575 号 氏名 濱岸 利夫
論文審査担当者 主査 杉山 和久
副査 三邊 義雄
山田 正仁

学位請求論文

題 名

The Association between Activity of Daily Living and the Combination of Alzheimer's disease and Cataract in Elderly Requiring Nursing Care

(要介護高齢者におけるアルツハイマー病と白内障の合併による日常生活動作能力の関連)

掲載雑誌名 雑誌名 Health 第8巻 第10号 994頁～1003頁

平成28年7月掲載

要旨

アルツハイマー病(以下AD)は、認知機能の低下のみでなく様々な日常生活動作(以下ADL)能力にも影響を与える。また加齢による白内障(以下CA)も多く、同様である。ADとCAのそれぞれが要介護高齢者のADLに及ぼす影響についての報告は多い。しかし、ADとCAが合併した場合、その合併によってどのような動作がどれくらいの影響を受けるかということについては知られていない。本研究ではADとCAが各々単独で生じた場合と、合併した場合、さらにCAに対する手術の有無の場合をADLで比較し、その合併の影響を横断研究で明らかにした。

調査は自記式質問用紙を用いて、全国の介護老人保健施設3410施設から無作為に抽出した50施設からの合計500人の要介護入所者および通所者を対象とし、ADL能力に関して基本動作、歩行・移動、認知機能(オリエンテーション)、認知機能(コミュニケーション)、認知機能(精神活動)、食事動作(嚥下機能)、食事動作(食事動作および食事介助)、排泄動作、入浴動作を評価した。

回答が得られた453人(回収率90.6%)に対する分析では疾患を有する場合と有さない場合で分類し、CAに関しては手術を施行した場合と施行しなかった場合において比較した。その結果、女性におけるCAを有する率が有意に高く、CAを有する場合には年齢でも有意に高かった。したがって、疾患によるADL能力を評価するために性別および年齢を共変量とした共分散分析を行い、ADとCAとの合併によるADLの変化は、ADとCAを2要因とした2元配置分散分析により評価した。その結果、ADとCAを合併する場合のADLは、歩行・移動、認知機能(精神活動を除く)、排泄動作において、ADとCAを合併しない場合と比べて有意に低かった。またCA手術を施行した場合のADLは、全てにおいて施行しなかった場合に比べて有意に高かった。さらに独立変数を入所・通所、性別、年齢、糖尿病、CA手術、臨床的認知症尺度(CDR)、従属変数をADL項目とした重回帰分析を行った結果、CA手術によるADLの回復効果が確認された。本研究は質問用紙を使った調査であること、CAに対する手術例数が十分でないこと。さらに診療録や手術歴などの客観的データに基づいていないという研究限界があるものの、CAに対する診断が適切に行われていないわが国の高齢者医療における現状を示唆する結果であったとも考えられる。

以上のように、本研究はADとCAの合併によるADLへの影響およびCAに対する手術の効果を疫学的に明らかにしたものであり、高齢者の予防医学に寄与する労作と評価され、医学博士に値するものと認められた。